第 8 回鎌倉市総合計画審議会 会議録

- 日 時：平成 25 年 6 月 25 日（火）午前 10 時 00 分から 11 時 30 分まで
- 場 所：市役所 本庁舎 2 階 全員協議会室
- 出席委員：大住会長、山田委員、安齊委員、波多辺委員、石井委員、岡崎委員、神川委員、阿曾委員、金川委員、薄井委員、山崎委員、波多委員、植月委員
- 欠席委員：なし
- 幹 事：相川経営企画部長、中野経営企画部次長、奈須経営企画部次長、渡邊経営企画課担当課長、下平経営企画課担当課長
- 欠席幹事：なし
- 事 務 局：鋤柄経営企画課課長補佐兼経営企画担当係長、鈴木経営企画課経営企画担当係長、経営企画課経営企画担当 1 名（武部・安富・平澤）
- 関連職員：なし
- 関連業者：2 名（トーマツ）
- 傍 聴 者：4 名
- 会議次第：
議題
- (1) 第 3 次鎌倉市総合計画 次期基本計画（第 2 次素案）について
 - (2) 今後のスケジュールについて
 - (3) その他
- 配付資料：
(1) 第 7 回鎌倉市総合計画審議会会議録（案）	資料 1
(2) 第 3 次鎌倉市総合計画次期基本計画（素案）に対する意見募集の結果について	資料 2
(3) 第 3 次鎌倉市総合計画次期基本計画（素案）に対する意見募集（自治・町内会の結果について（案）	資料 3
(4) 第 3 次鎌倉市総合計画次期基本計画（素案）（案）	資料 4
(5) 次期基本計画修正箇所一覧表（平成 25 年 6 月）	資料 5-1
(6) 次期基本計画修正箇所（抜粋）	資料 5-2
(7) 今後のスケジュール（案）	資料 6
(8) 計画の推進に向けた考え方	追加資料

○会議記録：

会長 それでは定刻になりましたので、ただいまより第 8 回鎌倉市総合計画審議会を開会いたします。

はじめに、本日の出欠状況について事務局から報告をお願いします。

幹事 本日の審議会は、現在 11 名のご出席をいただいておりますので、本審議会規則第 3 条第 2 項の規程により、成立していることをご報告申し上げます。

なお、山田委員につきましては、この前に会議がございまして、遅れてくるかと思っております。

以上でございます。

会長 それでは、出欠状況についてはよろしいですね。

それでは、続きまして本日の傍聴者の希望について、事務局から報告をお願いします。

す。

幹事 本日、傍聴者 4 名の方からお申し出をいただいております。

会長 それでは、傍聴者のお取り扱いについて、お諮りいたします。特に問題がなければ、ただいまより入室いただいでよろしいでしょうか。

一同 異議なし。

会長 それでは、ただいまより傍聴者の入室を認めます。
(傍聴者入室)
早速ですが、傍聴者の皆様に申し上げます。
会議中は静粛にお願いいたします。
発言は認められておりません。
また、資料につきましては、閲覧にとどめていただき、持ち帰りはご遠慮いただきますようお願いいたします。
また、録音や撮影もご遠慮いただければと思います。
よろしくをお願いいたします。
次に、配布資料の確認につきまして、事務局よりお願いします。

幹事 はじめに、本日配布しました資料の確認をさせていただきます。
次第、資料が 1 番から 6 番をご用意しております。
また次第の中には書いてございませんが、このような右肩に追加資料と書いてございます A4 の 1 枚ものの資料もあわせてお配りしております。
それから、机のうえにパブリックコメントの際に使用した冊子を置かせていただいておりますので、適宜ご参照いただければと思います。
以上でございます。

会長 続きまして、会議次第に入る前に、前回の会議録について、事務局よりお願いします。

幹事 第 7 回の会議録につきましては、事前に各委員宛に送付をさせていただきまして、内容の確認をお願いしましたところ、修正についてご指摘をいただいた部分がございます。
本日配布いたしました資料 1 は、それら修正を反映させた最終案となっておりますので、本日会議終了前までにご確認・ご了承いただければと思っております。
よろしくをお願いいたします。

会長 それでは、会議の最後に改めて確認をさせていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。
それでは、会議次第に戻ります。本日の議題は 3 件ございます。
(1)第 3 次鎌倉市総合計画 次期基本計画(第 2 次素案)について
(2)今後のスケジュールについて
(3)その他
となっております。
事務局より、本日の進行につきまして、補足説明をお願いします。

幹事 本日は、まずはじめに議題 1 といたしまして、前回の当審議会でご審議いただきましたパブリックコメントによる修正とあわせまして、庁内の意見等を反映した、次期基本計画第 2 次素案の案を作成いたしましたので、その内容についてご審議いただければと思っております。
また、議題 2 といたしまして、総合計画スケジュールの変更につきまして、ご説明させて

いただければと思っております。

以上でございます。

会長 それでは、進め方について、よろしいでしょうか。

一同 異議なし。

会長 それでは、まず議題 1 につきまして、事務局からご説明をお願いします。

幹事 それでは、議題 1 につきまして、担当の鈴木係長よりご説明申し上げます。

事務局 はじめに、資料 2 および 3 について、ご説明させていただきます。資料 2 と 3 をご参照ください。

資料 2・3 につきましては、前回開催の当審議会におきましてご審議いただきました、パブリックコメントに対する市の考え方になります。

当審議会からのご意見を踏まえまして、資料 2・3 それぞれ 1 枚目の 2-(3) と書かせていただいているところになります。

意見に対する市の考え方ということで、総括的な意見を入れるようにというご意見をいただきましたので、そちらを書かせていただいております。

1 枚めくっていただきますと、資料 2・3 とも前回と同じように一覧表ということでまとめさせていただいております。市の考え方になりますが、いただいたご意見を踏まえまして、表現内容等を修正させていただいております。

こちらにつきましては、本市の HP で公開するとともに、本庁舎の受付および各支所につきましても閲覧を行っているところです。また、先に行われました市議会 6 月定例会、総務常任委員会におきましても報告を行っております、了承を得ていることをあわせてご報告させていただきます。

それでは、議題 1 の第 3 次鎌倉市総合計画 次期基本計画(第 2 次素案)についてご説明いたします。

第 2 次素案における第 1 次素案からの修正点のご説明につきましては、資料 5-1 および 5-2 を中心にご説明をさせていただきたいと思っております。

資料 4 につきましては、修正箇所を反映した第 2 次素案の案としてお示したものとなります。

なお、第 1 次素案の巻末にありました資料編ですが、第 2 次素案の作成に伴いまして、一部修正をおこなっていることから、本日お配りした第 2 次素案の巻末には添付しておりません。資料編の修正につきましては、基本的な資料の変更はございません。いま載せている資料の内容・表現等の微修正とあわせて、当審議会の検討の状況などをつけさせていただく予定となっておりますので、大きな変更はないと考えております。

それでは、資料 5-1 をご覧ください。

資料 5-1 につきましては、次期基本計画修正箇所一覧表ということで、全部で 7 ページの表でまとめさせていただいております。

一番左側が、1 番から番号を振らせていただいております、その隣に修正区分と書かせていただいているところが、パブコメ・世界遺産・その他と分けさせていただきます、パブコメにつきましては、パブリックコメントをいただいたことに伴って修正を加えたところ、世界遺産とあるところにつきましては、世界遺産登録に関連して修正を行ったところ、その他とあるところにつきましては、庁内意見等を踏まえて修正を行ったところということで表示をさせていただいております。

修正内容といたしましては、表の一番右側の第 2 次素案と書かせていただいております。

すが、たとえば2番から見ていただきますと、第1次素案で記載している内容の修正をさせていただいているようなものが、主なものになりまして、そのほかに世界遺産登録に関連した修正、基本的には内容そのものの修正と言うよりは、表現をかえさせていただいているものが主なものになります。

ただ、見ていただくと、6番で世界遺産と書かせていただいているところにつきまして、全面的な修正を行っているということで、資料5-2をご参照くださいということで別紙をまとめさせていただいております。

それでは、資料5-2をご覧いただきたいと思います。

いまお話しした6については、2枚めくっていただきまして、見開き両側が今回全面的に修正をさせていただいたところになりまして、27ページと書かれています見開き左側のページにつきましては、表題と〈現状と課題〉について書かせていただいております。

まず、表題をご覧ください。

これまで「世界遺産のあるまちづくり」と書かせていただいていたものを、「歴史的遺産と共生するまちづくり」ということで変更させていただきました。

副題として「世界遺産のあるまちをめざして」ということで変更しております。

これにつきましては、世界遺産登録そのものがひとつの方法ではありますが、それ自体が目的ではないという整理のもと、登録に向けた取組み等によりまして、「歴史的遺産と共生するまちづくり」を目的とするものであります。

その結果として、世界遺産登録をめざすとの考えから、これまでどおり、次期基本計画の4つの柱の1つの位置づけはそのままと考えております。

次に、現状と課題につきましては、これまで「世界遺産のあるまちづくり」ということで、登録の決定を前提に現状・課題を書かせていただいておりますが、イコモスの勧告をうけて、推薦書が取り下げとなった現状とイコモスからの勧告でだされた内容を確認させていただきまして、課題を修正させていただいております。

また、右側の28ページにつきましては、計画の推進に向けた考え方として、いまご説明した表題となっております「歴史的遺産と共生するまちづくり」の考え方を冒頭で述べさせていただきまして、市として進めるべき取組を以下に書かせていただいております。

取組そのものにつきましては、世界遺産登録に有無に関わらず、本市として取組むべき内容であったことから、これまでの第1次素案と大きく変わるものではございませんで、一部修正をさせていただいたほかは一番下の7として「鎌倉を学ぶ機会の充実」の項目を追加しているところです。

世界遺産に関連するところの説明は以上となりますが、資料5-2のほかいくつかページがありますが、こちらにつきましては前回の当審議会でご説明させていただきました、パブリックコメントを受けて修正を行った内容としてすでにご説明しているところですので、本日の説明は省略させていただきたいと思います。

続きまして、資料5-1に戻っていただきまして、3ページ目の真ん中 No.27 から次のページの33までにつきましては、第1次素案で79～82ページということで書かせていただいたところになります。

こちらにつきましては、第4章の(2)ということで、子育てに関連する施策の方針が書かれているところになります。そのなかで、①ということで、1つの方針として、すべての子

育て家庭への支援としてまとめているところと、②ということで、子育て支援施設の整備とまとめているところですが、これにつきましてはお互いに関連する内容が多くありまして、1・2と一度分けさせていただいたところですが、よりそれぞれの施策の方針にあった内容とするため、一部表現の修正のほか、一部体系的な整理をすることとしております。

1にあったものを2にですとか、2にあったものを1にという形で、少し整理をさせていただいたところになります。

第1次素案から第2次素案への大きな修正点につきましては、ただいまご説明した通りとなりますが、昨日開催されました市の内部の検討組織であります総合計画策定委員会におきまして、さきほどご説明をさせていただきました資料5-2の世界遺産の関係のところ、27ページ、28ページと振らせていただいているところにつきまして、何点かご指摘をいただいております。

本日、会議次第には載せておりませんが、急遽追加資料ということでA4の紙を1枚資料を足らせていただいているのですけれども、こちらで計画の推進に向けた考え方につきましてはさきほどご説明しましたとおり、歴史的遺産と共生するまちづくりの取組の結果として、世界遺産登録につながるという趣旨での記述を事務局としてはしたのですけれども、趣旨そのものの理解はいただけたのですが、表現のわかりくさの指摘を受けておりますので、また他にも資料の下のほうで書かせていただいておりますが、表現の一部修正を求めるようなご指摘をいただいております。こちらにつきましては、本日修正案をお示しすることができませんでしたので、後日改めまして事務局から修正案ということでメール等でお送りをさせていただきます。ご意見をいただければと思います。

以上で説明を終わります。

会長 ありがとうございます。一番最後のご説明、追加資料なのですけれども、今日いただいている第2次素案の文章をどういう方向に修正されそうなんだという基本的な方向性を少しコメントをいただけるとありがたいと思います。

幹事 それでは、追加資料をご覧いただければと思います。まず、計画の推進に向けた考え方という大きな表題の下に、全体の考え方をふれている箇所がございます。文章としてふれてございます。

私どもこのなかで、世界遺産登録ということがまちづくりをすすめるうえでのひとつの手法であると書かせていただきました。

世界遺産そのものが目的ではなくて、まちづくりを進める中で、世界遺産にふさわしいまちができ上がってくる。その期を捉えて、世界遺産の登録がなされれば、市としてもいいことではないかという形で書かせていただいたつもりではおるのですが、昨日市役所の各部長の集まりの策定委員会にお諮りしましたところ、どうしても世界遺産をめざすという文章が強くみえてしまうというご指摘を頂戴しました。私どもとしてはそのつもりはない書きぶりはしたつもりなのですが、そのようにとられてしまう部分につきましては修正せざるを得ないであろうということで、世界遺産そのものが目的なのではなくて、まちづくりを進めながら、最終的に世界遺産をめざすのですよという書きぶりに変えていきたいなど、この部分につきましては考えてございます。

それから、4番目に防災対策の推進というものがあるのですけれども、今回、実は総合

計画審議会のなかでも一部ご議論をいただいた部分があるのですが、文化財ですとか、史跡を災害から守るべきであろうというご指摘を頂戴いたしました。その部分を改めて書かせていただいたのですが、これが防災対策の推進のところ、たとえば、この防災対策の推進のなかでは、人の命の部分に特化して書かせていただいて、文化財ですとか史跡を守るという部分につきましては、歴史的遺産の保全のなかにかくほうが相応しいのではないかとご指摘を頂戴しましたので、いまこの調整をさせていただいているところであります。

それから、5番目「観光基盤の整備」というものなのですが、これはもともとトイレですとか、表示板ですとかの整備をしますよという趣旨で書かせていただいたものなのですが今回の一連の作業のなかでそれだけではなくて、観光と市民生活の両立という部分を強めて書かなければならないのではないかとご指摘を頂戴しました。その書き込みの結果、観光基盤の整備という言葉が、全体の文章となじまないであろう、観光基盤の整備にもふれているのですが、どちらかというと観光の市民生活の両立というほうが表題としてはふさわしいだろうというご指摘を頂戴しております。これについても、その方向で直せばなどと考えております。

最後に7番としまして、「鎌倉を学ぶ機会の充実」これも新設で入れさせていただいた部分でございます。これに、市内小中学校及び高等学校としているのですが、鎌倉市内には高等学校だけではなく、専門学校もございますし、大学もございます。そういうところとの連携も必要であろうということで、それを含めた書きぶりに修正をしていく形で考えております。先ほど鈴木のほうからも申しましたが、この辺の文章を私どもなりに整理をさせていただいて、庁内の調整をいただいた上で、委員の皆様にお送りをしてご意見を頂戴したいと考えております。

以上でございます。

会長 ありがとうございます。

それでは、委員の皆様からご意見・ご質問等ございましたら、どうぞ。

委員 いま世界遺産の関係につきましていろいろと推測がありましたけれども、今回残念ながら世界遺産登録が果たされなかったということで、鎌倉としても非常に残念に思っているところですし、私としても残念に思っているところであります。

世界遺産登録が不採用となったことに対して、登録ができないということであれば、歴史的な世界遺産に向けての考え方というのは、今回できていくように修正をせざるを得ないというのはやむを得ないと思っています。

「世界遺産登録というのは、それ自体が目的ではない、鎌倉の必要な歴史的資産を守り伝えていくひとつの方法です。」という言い方をしていますけれども、実際にこう言ってしまうと、世界遺産を置き去りにしているようなニュアンスに感じてしまいます。確かに、ひとつの方法かもしれませんが、もし仮に登録ができればこういう言葉はでてこないと思います。

「世界遺産があるまちとして、基盤を整えるとともに、世界遺産登録に向けては、登録に結びつくコンセプトの再検討」となっています。再検討していきましょうとなっておりますが、コンセプトを「武家の古都」ということからほかの「禅の鎌倉」等に考え方を早急に出して、鎌倉としても世界遺産登録をめざすという強い意志が必要だと思っております。

いまお話の部長会議のなかで、世界遺産登録が前面になっていると言っておられますけれども、どなたが言ったか知りませんが、鎌倉である以上、世界遺産というのは、それ

に向けて積極的に努力していく必要性というのがあると思います。

世界遺産登録が前面になっているという意見もあるようですが、そういうのはよろしくないとします。

鎌倉は意地でも世界遺産登録に向けて、一生懸命努力していきますという趣旨のものが欠けていると思います。

世界遺産という次期基本計画のなかで、27 ページの「歴史的遺産と共生するまちづくり～世界遺産のあるまちをめざして～」ということで、世界遺産という文言は消えていませんが、180 度転換したような、今までみなさんが世界遺産登録に向けてやってきた人たちが登録が不記載になってしまったという、次がいつになるかわからないということは、私としては寂しい気がします。

私の一意見ですが、昔市役所にいた経験もありますし、文化財の関係も4年くらいやったことがありますので、思い入れがあります。

鎌倉の文化財を守っていくために、世界遺産というものを前面にだして進めていただきたいという気持ちがあり、後退したような発言が多かったのも、これからも頑張っていたきたいということで、意見とさせていただきます。

会長 事務局から、実際に後退したのかというご指摘がありましたので、コメントをお願いします。

幹事 確かに、イコモスから勧告をうけて、選択肢はいろいろあったのだと思います。世界遺産登録という言葉がなくしてしまうというのもいくつかある選択肢のなかの1つとしては当然のことながらあったのかなと思っています。ただ今回、27 ページ・28 ページというものが含まれる章は、鎌倉市が市制を運営していく上で、横串を通す考え方を示した章になります。そういった章の中で、世界遺産登録というものはお示しする必要があるだろうということで、このような書きぶりをさせていただきました。ただ、市民の皆様と意識を共有しながらまちづくりを進めて、その先に世界遺産があるという考え方が今後、とっていかうで相応しいだろうなということで、もちろん世界遺産を弱めていく意志は全然ないのですけれども、市民のみなさんと一緒にやりましょうというところを、是非ともお見せしたくて、こういう書きぶりにさせていただいたというのが私どもの考え方でございます。

委員 今回のイコモスの結果がでるまで、世界遺産になったらなにをしなければならないという表現がいっぱいあったと思います。

しかし、ひとつひとつ見ていきますと、世界遺産になったからするのではなくて、そのままに整備をしていかなければいけないものが非常に多かった。

逆に言えば、そういうところを整備してこなかったから、実際にそういう指摘がイコモスから出た訳であり、そのひとつが防災関係の指摘です。これからは市民にとって安全で住みやすいまちづくりを実現することが、結果的に世界遺産にも繋がると思います。また、今まで世界遺産登録は行政が中心になって進めてきましたが、今回の結果を踏まえて、世界遺産の今後の進め方については、市民とのコンセンサスを十分に取る必要があると考えます。

委員 今回の勧告で、景観圧力がコントロールできないというところで、2 番の景観向上の促進というところで「古都保存法や景観法など」と書いてありますが、これだけでは守れないところもいっぱいあり、市が景観重要建築物を指定しているが、諸事情で庭先が分譲されている等で、この法律では手当てができない。

面積が小さいと、開発条例にもかからず、法では抑えきれないものがたくさんある。先ほど波多辺さんがおっしゃられたように、市民と共有していくという意識を市民に投げかけるのが大事なのかなと思っておりまして、「敷き際」と言っているのですが、鎌倉に住まうことの作法・心構えを市民に訴えていかなければ、法律だけでは限界があるので、市民の方がそういう意識がない。

よその業者さんは、法律に反しなければなにをやってもいいというか、お金儲けだけでまちの姿を変えてしまうということが、現状として多く見られるので、いま市民がもっていて、なんかしらの事情で手放さなくてはいけなくなってコントロールがきかなくなるので、手放される前にそういう意識を市民みなで共有できれば、そういう方向にいかないのかなと。

それをなんて書けばいいのかは私にはわからないのですが、そういうところを少し盛り込めたらいいのかなと思いました。

幹事 実は、28 ページの7番のところは私どもが委員おっしゃられている思いを入れたところでございます。

鎌倉が世界に誇って恥ずかしくないまちだと私どもも思っております。それで、そのまちをそのまま残していった、次に伝えていくために、市民の皆様・事業者の皆様に鎌倉を知っていただく、鎌倉の価値ですとか魅力を知っていただく取組みが是非必要だろう。今回イコモスの勧告・一連の流れをうけて、新たに加えた部分がこちらになります。

この取組の中で、市民の皆様や事業者の皆様など様々な皆様に鎌倉の良さを知っていただいて、鎌倉のいまある部分を大事にさせていただくという意識が高まっていけばなと考えております。

この7番は、そういった意図で追加をさせていただきました。

委員 27・28 ページを呼んだ第一印象として、左ページのイコモスの勧告についてふれた10行ほどの文章が、これを受けてる文章がない。この文章は、なくても意味が通ってしまうが、浮いてしまっている。こういうことを言われましたということを便宜上書いてはいるのですが、これに対して市が今後継続して登録をめざしていくうえにおいて、なにを勧告から反映して計画にいくのか、いまひとつつかみにくい。

あとは、波多委員がおっしゃったように、1・2・3・4と上から並べていくと、どれがどれとリンクしていて、全体としてどこにいつているのかが見えにくい。1個1個は言っていることはよくわかるのですが、素人の考えですと、観光客には来て欲しいけれど、観光客を呼び込むための商業施設は抑えないといけないというような、どちらかをとればどちらかが駄目になるのではないか。

非常にお互いにリンクした7つの課題だと思うので、もしかしたら1・2・3・4という順番よりは、図解であるとか、全体として鎌倉というまちが、人の意識の改革から観光客の呼び込み方まで含めてトータルでこうやって発展していかなければ、イコモスの勧告というのはクリアできないというのが、もう少しこの見開きで明示できるような書き方ができないものか。

非常に短い時間にこうしたものを作るというのは大変だと思うのですが、市民がなんで駄目だったのかという気持ちが継続してあると思うので、はっきりとこの段階で明確な姿勢を打ち出すことが、市民がついてくることについてくることにつながってくると思うので、もう少しトータルなビジョンというか、勧告への方針含めた表現みたいなことを工夫していただくことは難しいのかなと思いました。

幹事 27 ページ3つ目の段落のなかで、イコモスの勧告についてふれてございます。
ひとつは、「武家の古都・鎌倉」というコンセプトに対して、いまひとつ証拠が足りないねというご指摘があった。次に、誤解を避けるために申し上げますけれども、ここに「資産に影響をあたえる要因」というものがございます。そこに、都市化の圧力などが書いてあるのですが、今回のイコモスの勧告のなかで、鎌倉市が不記載になった理由として掲げられたものではないと聞いております。
これは世界遺産一般にいわれることですよという捉え方でよろしいのかなと考えております。
まず、「武家の古都・鎌倉」については、証拠が足りませんねというご指摘を頂戴しました。これについては、対応といたしましては、「武家の古都・鎌倉」の証拠をもう一度つくりあげるといことはなかなか難しいのかなと考えておりますので、たぶんコンセプトを練り直すという形で対応していくことになるでしょう。
それから、いま申し上げました、「資産に影響をあたえる諸要因」につきましては、ひとつは都市的圧力、それから自然のリスク、これは災害等を含みます。最後に、観光客による圧力とうたわれております。
それらを28ページのなかで、自然・都市的圧力のなかでは景観向上の促進、観光客の関係では、観光基盤の整備という形になっているんですけども、たとえば、観光と市民生活の両立するようなまちづくりを進めていかなければいけないというようなかたちで、これを受けてこちらを書かせていただいたというのは、私どもなりに考えさせていただきました。ただ、委員おっしゃるとおり、これがどこにつながっていくかがわかりづらいということであれば、その部分については、わかりやすいような図解をつけるなりなんの工夫をしていかなければいけないのかなと考えております。

委員 今回そもそも総合計画を2年前倒してつくるという前提は、3・11後の防災を整えることが急務だということと、世界遺産登録がされるという、そのためのまちづくりが急務だということが大きな理由だったように私は認識しています。
もちろん、計画をたてなくても、いつ地震・津波等の災害が襲ってくるかわからないので、日々職員のみなさんはそのことについて進めておられると思います。
今回、世界遺産登録が不記載となったことについては、もう一度見直さなさいということの宿題・課題を世界のみなさんからいただいたと受け止めたいと思っています。
コンセプトも変更しなくてはいけないとおっしゃったように、世界遺産登録をするためにどういうコンセプトでまちづくりをしていくか、という根源的なことをみんなで共有していかなければいけない。
もう一度、20年間かけて世界遺産登録を進めてきたみなさんも、それを応援してきた市民一般も含めた形で、どういうコンセプトをめざすのかということが計画の推進に向けた考え方がみえてくると思うのですが、まだ4月の末に不記載だよという情報をいただいて、そんなに時間がたっていないくて、ショックから立ち直れていない市民も多々ある中で、次の計画を急いで進めていくということに、これでは総合計画がいいものにならないのではないかという懸念をもちます。
この章も含めて、9月議会から12月議会へのスケジュール変更もあったそうなので、もう少し時間をかけて、文化庁の方のお話を伺うとか、世界遺産協議会のヒアリングをしたうえで、そういうこともしたうえでこれを決めていくという時間的余裕はないのでしょうか。

幹事 一点、今回の前倒しの関係なのですけれども、私どもとしては防災・減災対策を急がなければならない。もうひとつは、市の財政環境を改善していかなければならないということで前倒しをさせていただきました。

世界遺産につきましては、たまたまと言ってはあれなのですけれども、ちょうど策定作業をやっているなかで世界遺産の登録がなされる可能性があるということも含めてこのなかに入れさせていただいたということでございますので、世界遺産登録が前倒しの理由というかたちでは私どもご説明申し上げてございません。

それと、もう一点ですが、いろいろとコンセプトを練り直してということなのですが、これは私は専門外なので確定的なことは申し上げられませんが、鎌倉の世界遺産登録がいま「武家の古都・鎌倉」で進めてきたわけなのですけれども、これをコンセプトを仮にかえるとすると、やはりこれまでも「武家の古都・鎌倉」で証拠が足りませんねというご指摘を頂戴している事実があります。今度、推薦書というものを世界遺産委員会に提出するのであれば、そういったことを言われぬような作り込みというのが必ず必要になってくると思います。そういったものは、2年・3年という短い期間ではなかなかできないのかなと思っております。それを待ってますと、基本計画のほうをいつまでもつけれないということになります。先ほども波多辺委員からもおっしゃっていただいたように、世界遺産をめざすうえでのまちづくりの基盤を作りながら、コンセプトはそのなかで一緒に作業をさせていただいて、しかるべき時期に推薦書原案というものを作って、世界遺産委員会に推薦書を提出できるような作業を進めていきたい。そのための、全体のおおまかな方針を書かせていただいていると考えておりますので、たしかに、イコモスの勧告を受けてそんなに時期は経ってないという事実はあるのですけれども、それでもやはり前向きに進めていけるものは進めていきたいというのが鎌倉市の立場でございます、この中でもそのように書かせていただいております。

委員 少数意見かも知れませんが、今回のイコモスの勧告の文章がまったくわからない。そもそもイコモスの勧告とはいかなる根拠によってなされるものなのか。

たとえば富士山については、三保松原は当初除外と言っていたにもかかわらず、いつどういプロセスで、誰がどういう意見によってこれが最終的に入ったのかもわからない。

また、イコモスの勧告にもともとある「資産が危機的な状況に遭遇したときにそれを守る」という基本的考え方からは、個々の文化資産のみならず、それをくるむようなバッファゾーンすなわち緩衝地帯整備というのが非常に重要だと指摘されてきた。その点については、鎌倉は世界遺産登録を待たずに、緩衝地帯についてはかなりの整備を行い、いいポイントをあげているはずだと思う。こうした点についても今回はなにも言われていない。いままでは、緩衝地帯については随分フリクションがあったと聞いている。しかしここは今回は論点ではないのか。

みなさん怒ったらいいと思うんですよね。なんだい、イコモスとは。そもそも今回の理由で、駄目だと言うのであれば、あらかじめ言うべきではないか。1333年までの資産で勝負するというのは目に見えているわけで、そのあとたくさん震災とかがあつて、歴史的資産を守ろうと思っても守れなかったという客観的な状況があつた。それは、歴史的事実であり、もしも登録にふさわしくないのであれば、はじめからイコモスは言うべきで、この段階で言ってきたというのがおかしいと思うんです。この点、すでに意見がでていかもしれませんが、交渉がなくて、いきなり駄目だというのは手続プロセス論からみても

おかしいし合理的な理由もよくわからない、誇りある鎌倉は、文化庁にすぎらんじゃなくて、むしろ文化庁などを利用してもいいんですけれども、おかしいじゃないかと言えがいい、というのが直感です。

次に、先ほど緩衝地帯整備について申し上げたように、ほかの事例がどういう観点から世界遺産として評価されているかという点をもう1回リファーしなければいけないとは思いますが。

そのなかで、「なにが足りないか」ということよりは、原点にかえって、世界遺産に登録する、しないに関わらず、「なにを保持するか」について考える。そして、いまある資産で外形的要件が一応整備されているのであれば、それを再度訴えていけばいいと思うのです。ベースの部分はしっかりできているのであれば、その点を再度アピールすればよいと思う。

鎌倉の都市計画、歴史的遺産の保全ということであれば、常に国よりも先行し、鎌倉での取り組みが結果的に、事後的に法律になっているという事例がたくさんある。こうした実績を再度整理して、世界遺産について「これからがんばります」という以前に、むしろイコモスに対してもちょっと喧嘩売ったらいいんじゃないかなと思います。少数意見だとは思いますが、率直な感想です。

委員 世界遺産につきましては、リードに書いておりますように、今後めざすというのは一致した考えなのかなと思っておりますが、28ページの議論に戻しますと、リードの部分が中途半端というかあまり思いが伝わってこないかと懸念しております。

最初の4行くらいで現状の分析を書いておりますが、課題を示さないといけないと思いました。

要するに、これまで各法律で保存等をめざしているけれども、十分でないので今後、法を継承・さわらぬことが必要であるという旨を記載いただいて、そういったことを積み重ねて登録をめざすというような、思いが伝わるような文章に変えれば、下に書いてある1~7が計画レベルでアイデアのようなものが含まれるのは、計画レベルということで大きな方針なので、仕方ないですが、詳細な実施計画で矛盾されたら困りますが、7つの方法論ってところはバランスよくやっていくんだなということで理解はできます。

実際は、現状としても世界遺産登録は次のステップに入ったなという意見として思いがあるので、リードの部分のまとめがちよっとなという思いがあります。いまは、課題意識はあるからこそ、古都継承が十分でない、さらなる共感が必要なので、結果的に栄えていくために世界遺産登録が必要という旨が入ることで、今後やっていくって思いが伝わるんじゃないかなと思います。

以上です。

幹事 ありがとうございます。やはり、リードの部分につきましては、直していかなければいけないのかなと思います。頂戴したご意見も踏まえて修正をさせていただいて、また委員の皆様にはご覧いただければなと考えてございます。

委員 皆様の熱い思いをお聞きしながら、私もいろいろと考えておりました。今回のイコモスの勧告を、冷静に受け止める必要があると私は考えております。先般の教育委員会で勧告の翻訳を拝見しましたが、物的証拠が不足している、普遍的な価値が証明できない、と明記されています。また、評価のレベルの低さを考えても、このまま再挑戦をしていくのはかなり厳しいのではないかと受け止めています。

多くの方が世界遺産に向けて努力され、長年の積み重ねがあったことを委員会の報告

でも常々伺ってうかがい、敬意を感じております。しかしながら、世界には歴史的・文化的な町並みや暮らしを見事に維持している街が沢山ある中で、このたび鎌倉が受けた勧告の根拠を見る限り、今のままでは絶望的にさえ感じます。仮に報告書を練り直したとしても、物的にないものはないわけですから、鎌倉はどう出直せばいいのかと感じます。

そのような状況下で、世界遺産をめざすまち、と全面に出すのは危険かもしれません。世界遺産を目指す道もあるよ、くらいでいかがでしょうか。世界遺産登録は、まちづくりの最終目標でなく、鎌倉の歴史的遺産の価値を示す一つの手段でしょう。しかしそれ以前に、鎌倉というまちがどうあるべきか、ありたいのかのグランドデザインをしっかりとつくるのが最も大事だと思います。

その方針のもとで、世界遺産に向けての取り組みも進められるべきだと思いますし、鎌倉はあくまでも鎌倉の魅力をまもり、外に伝えていくんだという毅然とした姿勢が総合計画の中にほしいという印象です。

委員 一番最初の自己紹介のときに申しましたが、私は彦根城の世界遺産登録推進委員会の副委員長です。今回の鎌倉のこの結果は、彦根では大変衝撃をもって受け取られました。鎌倉が無理なら他はもっと無理だと。

世界遺産は、不動産を対象にしたもので、無形文化財は対象になりません。有形の不動産です、基本は。そういう観点から、鎌倉が京都・奈良と同じような日本の古都であると主張するのは無理です。

つまり、京都・奈良と違うところを見つけてきて、主張するかというところが、実は大きなポイントになって、しかもそれが不動産でなければならないということで、切通しであるとか、やぐらであるとかいうものを一生懸命おやりになった。ただそれは本当に世界的な意味で普遍的価値を認識できるかっていうと、ちょっと待てよというところですよ。

実は、国内の委員の間でも鎌倉に幕府の関係の不動産なんてなにもないんじゃないかということは最初から問題になっていた。これをこれからどうするかというのは大変難しい。余計な話ですが、いま世界遺産は1,000件くらいになってますから、もう増やしたくない。そこで彦根では、姫路城を含めて、日本の国宝4城を世界遺産にできないかという戦略を作れないかと考えています。

もうひとつは姫路というのは、城郭部分しか残ってなくて、堀だとかがみんななくなっている。彦根の場合は、城郭だけじゃなくて、城下町全体がのこっている。そのなかで、いろんな歴史的資産がある。いろんな議論があって、意見が集約できてません。そのため、提案もできない状況です。鎌倉はこれまでの延長で登録ができるのかなというのを、懸念としてもっています。

ただ、やっぱりこの20年、先ほども書いてある通り、鎌倉でこれまでに歴史的遺産をまもるために民間からの提案で、風致保存の法制度を整えることなどをやってきました。我々が歴史遺産を守り伝え、これからも後世に伝えたいという目的に対して、具体的な目標として世界遺産というものがあると、やりやすいではないかというのが、根本的にあったと思うのです。

ひとつの方法ではなくて、むしろ歴史遺産をまもることを目標にし、その具体策として世界遺産というものをめざしてきましたという風に、発想を違う方向で書いたほうがいいのではないかと。

総合計画の中で、世界遺産のコンセプトをどうするかというのは総合計画の対象では

なくて、むしろ景観をどうするか、土地の利用をどうするか、災害があったときにどうするかといった、指摘された観光客が2,000万もあってどうするのかということをお互いに気持ちよくまちの中でどうやっていくためにどうしたらいいのかというのがこの基本的な目標であって、その先に世界遺産もあるということで、コンセプトを考える人たちと一緒に検討することですよという論理展開のほうがいいのではないかと考えます。いろいろもってきちゃうと大変難しいことになってしまうので、そういう点をお考えいただいたらどうかと思いました。

委員 いまのご意見からの提案なんですけれども、今度の「歴史的遺産と共生するまちづくり」となっているんですけれども、そもそも世界遺産、歴史文化遺産という名称だと思います。

ただ歴史的な不動産であれば、そういうことも含めて歴史的遺産と共生するという、そのまちづくりの観点からいえば、足りないのではないかと、「歴史文化遺産と共生するまちづくり」とか。

今回不記載の大きな理由を考えるに、文化のまちづくりという視点が少し欠落していたのではないかと指摘されているのではないかと考えています。たとえば彦根城のことがでましたけれども、滋賀県の小さな町の町立図書館長のところにもイコモスが来て、彦根城のまちの人たちにとって、町立図書館がどのように寄与しているかということを探ねられたと聞きます。正式な調査ではなくて、日常的にイコモスの関係者はまちを歩いて、図書館とか博物館とか郷土資料館とかそういう公共機関を巡って、そのまちの文化的なスタンスを調査しているのだと思います。

そういう事実を聞いて、鎌倉は果たして博物館、博物館はないですけれども、国宝館とか文学館とか図書館とか、そういった文化的機関をいままでどのように重用してきたかということ、イコモスは調査をするのだなと考えました。

少ない経験ですけれども、プラハに行っても、ベネチアに行っても、みな、まちのまさにホットゾーン、中心地に公立図書館がきちんと存在している。歴史文化を守り育てる人のための文化的な施設がきちんと機能していました。ロンドンしかりパリしかりだと思います。

なので、「歴史的遺産と共生するまちづくり」と書いてありますけれども、歴史文化都市のまちづくりというか、文化という視点をここにに入れていただきたいと思います。また、歴史を継承し、文化を創造するまちという章が44ページにありますが、そこの関連性を色濃くして、具体的に箇条書きにする部分については、そちらのほうと第2章をもっと関連付けた記載にしていきたいなと考えます。

委員 いま山崎委員のお話を伺って非常によくわかった、というのが正直な気持ちです。

たぶん、この感想は、おしなべて鎌倉市民のみなさんは、遺産におちたという事実はみなさんわかるんだけど、なにをもって判断され、どこがだめで、どこがよくて、ゆえに今後なにをしなければならぬかという基本的なことを理解している市民はあんまりいないと思うんですね。これは、それを理解できている前提で説明があれば、山崎委員がおっしゃったことを聞いてこれを読むとよくわかる、という前提なので、もしかしたらこのバージョンとは別に、世界遺産ということに特化した説明が別にあって、鎌倉市がめざしているまちづくりの不動産という部分とそのバッファゾーンに対しての評価がイコモスからあって、全部ではないと。少なくとも、それ以外なところに鎌倉が共生するまちづくり、目に見えない不動産ではないところに重点を置いてきた。イコモスの判断では

この部分への評価です。この部分はこの部分で、粛々と受け止め、計画を進めていくなかで、次の方向性を決めていきます。この部分については、継続してやっていきますというような。やはり、話が元に戻るのですが、全体像をここで一回整理しましょうということが、いまの世界遺産の登録におちたという状況を一步越えるために必要なもの、そこを手抜きしてしまうと非常にわかりにくいまま先へ先へ行ってしまふ。もう一步噛み砕いた表現がないと、これだけ専門の委員さんの話を聞いていて、なんとなくわかるという状況ですから、文章2ページ読んだだけでそこまでいけというのは難しいところかなと思うのが正直な感想です。

幹事

たくさん意見をいただきました。

いまのご意見についてなのですが、これは基本計画書であるというところを考えますと、世界遺産のためだけに詳細なご説明をするというのが他と馴染むかという部分は考えなければならないと思います。

ただ、お読みいただいて、結局なにをしたいのというのがわからないという計画も都合が悪いものだと思いますので、それも含めて私どものほうで一度、案を作らせていただいて、それをご覧いただいて、またご意見を頂戴すると。

恐縮なのですが、7月5日に皆様のご予定を頂戴して、そこでというのがあるのですが、シングルイシューのためにもう一度お集まりいただいてというののかなりつらい部分もございますので、メールでやりとりをうまくさせていただいて、皆様のご意見を頂戴して、それをお返しできるようなやり方を私ども工夫させていただきますので、私どもにご意見を頂戴したうえでの案をお示しするというところで、いかがでございましょうか。

いろいろご意見を頂戴しまして、なかば対立するご意見などもありましたので、すべて皆様のご意見を受け入れて、全部形に変えるということではできないと思うのですが、皆様からいただいたご意見が、ああこういうことね、とお分かりいただけるようなものにできるようになんとか努力したいと思いますので、今日ちょっとご返事はなかなかできないのですが、そのような形で対応させていただければと思います。

委員

私の不勉強なのですが、基本計画でない分野の、世界遺産の専門の部署の方が、市長さんとか神奈川県知事のコメントはテレビで見たのですが、おちたことに対する答えみたいなものをどこかでパブリックにだしていらっしゃるのでしょうか。

幹事

まずは、HPのトピックスのページに、随分長い間、消えないように残していただいています。そこで、鎌倉市の今回の世界遺産登録の顛末ですとか、どういった部分が駄目だったのかというところはお示ししております。

それから、今後世界遺産のほうもまだこれから次のスタートをどのようにきろうかという検討している最中なのですが、市民の皆様にも、どうだったのかというところをご報告をし、そのうえでご意見を頂戴するような取組を進めていかなければいけないと考えておりますので、今後そういったものが進んでいくと思います。

今後市民の皆様にも、HPだけではなくて、じかにお話ができる機会が増えてくるのではないかと考えております。

あと、市長からですが、いろんな場面で市民の皆様にお集まりいただいて、いろいろな市政の重要課題についてご説明させていただく、ふれあい懇談会ですとか、ふらっとミーティングといったいろんなチャンネルがございます。

そういったなかでも、まだ、世界遺産登録を取り下げますと言ってから、1ヶ月もたつて

ございませんので、そのなかで、そういった説明も今後していくのではないかと思います。

会長 根本的な意見になってしまいますが、追加資料ですが、28 ページの「計画の推進に向けた考え方」の項目になく、それを受けた文章がなく、その趣旨が読み込めないという部分ですが、根本的に加えていただく必要が私もあると思います。

山崎委員からもご指摘があり、まさにその通りで、ここの部分もう一度再検討していただいて、少なくとも世界遺産登録の仕組みは仕組みとして、それが今回の基本計画とどうやって関わってくるのかということをご示しする必要があります。

この点について、早めにお示しいただければと思います。

渡邊幹事 ありがとうございます。できる限り早めに、そうは言っても場当たりのものをつくってしまつと、今後6年間の計画になりますので、それなりに精査をさせていただいて、できる限り早い段階でメール等でお送りさせていただきたいと思います。

よろしくお願ひいたします。

会長 それでは、かなり時間も経過しておりますので、まだご意見あるかと思いますが、一旦議題2に入りたいと思います。

委員 教えていただきたいんですけど、追加資料の7番の「鎌倉を学ぶ機会の充実」のところ、私たちに深く関わるので教えていただきたいのですが、「小・中・高等学校に限られないため」とありますが、どのように修正されるのですか。

幹事 この指摘につきましては、高校だけではなく、市内には大学もございます。それから、実は専門学校と教育上のやりとりをしている部分もございますので、簡単に直すのであれば、「高等学校等」ということもありますし、「高等学校・大学等」という書き方もありますし、その辺がわかっていたらいいような直し方をしていきたいと考えております。

委員 生涯教育ですと、年代が幅広くなると思いますので、学校教育に限定しなくてもいいのではないのでしょうか。

生涯学習という観点も盛り込んでいただきたいなと思います。

会長 7番は、実は横串であったということで、すべてに関わります。そうであれば、広く書かれたほうがいいですね。

それでは、時間の関係もありますので、議題2に入りたいと思います。

議題2について、ご説明をお願いします。

幹事 それでは、議題2「今後のスケジュール」についてご説明申し上げます。

お手元の資料6番、横置きスケジュール表をご覧ください。

次期基本計画のスケジュールにつきましては、前回の当審議会においても少しふれさせていただいたところがございます。第1次素案のパブリックコメントを得まして、当審議会案の諮問・答申を経て、本年9月の上程をそもそも予定してございました。

しかし、すでにご案内の通り4月末に「武家の古都・鎌倉」のイコモスからの不記載が相当との勧告を受け、その後推薦書の取り下げに至ったことから、次期基本計画の記載内容を変更するとともに、スケジュールの変更を行う必要が生じております。世界遺産の登録に関しましては、第1次素案のなかで「世界遺産のあるまちをめざして」という表題で世界遺産登録がなされることを前提とした記載をしておりましたが、第2次素案では、「歴史的遺産と共生するまちづくり～世界遺産のまちをめざして～」という、いまの案へと表題を変更いたしまして、歴史的遺産と共生するまちづくりを進めながら、世界遺産のあるまちをめざす内容へと記載を改めました。この世界遺産の記載は、施策全

体へ横串をさす考え方をまとめた第2章「計画の推進に向けた考え方」に含まれる重要な記載であると考えております。

この修正を含む第2次素案を確定するにあたりましては、一度パブコメをやったところではあるのですけれども、もう一度、第2次素案についてパブリックコメントをするべきだろうと私ども考えてございます。

資料の6をご覧くださいますと、ちょうど中段あたりに「パブコメ(追加)」という欄を設けておりまして、7月15日頃から1ヶ月パブリックコメントのご意見を聴取しなければならないという規定になっておりますので、この期間でパブリックコメントをやらせていただければと考えております。パブリックコメントをいたしますと、意見をお伺いする期間は1ヶ月なのですが、その前後に準備期間といただいた意見をとりまとめる期間がございます。それを考えますと、2ヶ月くらいかかってしまいます。

さらに、その後に当審議会の諮問・答申を頂戴するというスケジュールを考えますと、9月議会への上程は実質的に困難だと考えてございます。

審議会の皆様には、9月議会に上程して終了ということをお願いしていたところではあるのですけれども、今回の状況を鑑みまして、是非とも12月までご審議にお付き合いいただければと思います。お願いでございます。

スケジュールのほうは、結果として12月議会で議会上程というかたちで考えてございます。

以上でございます。

会長 今後のスケジュールについて説明がございましたが、ご意見・ご質問等ございますか。
(なし)

こういう形ですと、パブリックコメントが必要でしょうし、結果的にスケジュールはこうならざるを得ないと思います。

よろしいですか。

(了承)

事務局からの今後のスケジュールについては了解いただいたということで、次に進めたいと思います。

次は議題3ということで、事務局から説明をお願いします。

幹事 次回の日程でございますけれども、先ほど申し上げましたとおり、7月5日に審議会をという形で日程調整をさせていただいたところですが、先ほどメールのやりとりでご了解をいただきましたので、そのような形でやらさせていただきます。

パブリックコメントを行った後に、パブリックコメントで頂戴した意見を踏まえて修正を加えた案をもう一度ご審議を頂戴したいと思っております。それが、8月の中旬から末にかけての開催になるかなと考えてございます。具体的な日程につきましては、後日改めて日程調整をさせていただきたいと思っております。その後、ご提出いただいた日程調整表に基づきまして、日程調整をしたうえで事務局より開催日程の確定のご連絡をさせていただきたいと思っております。

以上でございます。

会長 次回のご予定ということで、7月5日を確保いただいておりますが、これを行わないということになります。

今日のご意見を踏まえた修正につきましては、いつメールでいただけるのでしょうか。

幹事 少しお時間を頂戴しなきゃいけないかなと思っております。ただ、できる限りということ

で、目処としては1週間後くらいにはなんとかかと思っております。ただ、その時期にお出しできないようであれば、一度メールで、もう少しお待ちくださいというメールをさせていただきます。

会長 次回の審議会については、8月の中旬・下旬あたりということでよろしいですか。
(了承)

それでは、本日の議題は終わりということになります。
元に戻りまして、先ほど言い足りなかったという方はいらっしゃいますでしょうか。
よろしいですか。

(了承)
ないということですので、冒頭でお示いたしました前回の会議録について、お願いします。

幹事 会議録でございます。お手元にお配りしたものが、少し内容が間違っていましたので、改めて正しいものをお配りしております。申し訳ございません。
先にお届けしましたものが、修正を一部おとしておったということで、今回お配りしましたもので、いただいた意見についてはすべて修正を済ませたものになっております。失礼いたしました。

事務局 実は、ご意見いただいたものは事前にメールで送らせていただいたものは反映させていただいたものを一度ご確認していると思うのですが、今日お配りしたものが、その後いくつかいただいたご意見を追加して、修正したもので打ち出すときに、修正前の状態で打ち出してしまったので、一番最初の原文のままという状態になってしまいました。

いま、委員からご指摘をいただきまして、その部分も含めて、最終形ということで打ち出させていただきました。ですので、修正箇所は何点かあったのですが、先にお配りしたものが、一番最初のまったく手をいれてない状態のものとなってしまっておりました。申し訳ございませんでした。

会長 ご確認いただいたということで、よろしいですか。
(了承)

それでは、了承ということですのですめたいと思います。
以上で、第8回総合計画審議会を終了させていただきます。

一同 ありがとうございます。

以上